

長野県伊那市

二つのアルプスに抱かれた自然共生都市
人と歴史と文化を育む活力と交流の美しいまち

「少子化・人口減少社会に対応した活力ある学校教育推進事業」の取り組みから

長野県伊那市教育委員会 学校教育課
主 査 竹 松 政 志

A photograph of a classroom with students seated at desks, a teacher at the front, and a television displaying a video. The image is semi-transparent.

教育理念

「はじめに子どもありき」

伊那市が大切にしている教育活動

子どもたちが**“暮らしのなかの食”**を核として

伊那谷の自然とくらしの**“循環”**を毎日の
保育園・学校で実感し、学ぶために

- 子どもたちが、発達段階に応じた食を楽しみ、たくましく育つことをめざします
- 子どもたちが、発達段階に応じ、日々の暮らしのなかで自ら料理することの楽しさを体験します
- 子どもたちにとってより安全な「調理」をめざします



- すべての子どもが、食材をそだてる、採る・収穫する「本格的農業体験」のたのしさを体験します
- 子どもたちが、「地産食材」を通して地域の自然、人の宮みと食のつながりを実感します



伊那市学校給食食農体験事業 “暮らしのなかの食”

平成25年8月、「伊那市学校給食あり方懇談会」が設置され、将来の保育園・学校給食のビジョンを提示し、その具体化に向け、議論すべき課題を設定するとともに、各課題の検討・立案・実施のための指針が示されました。これを受け、「伊那市学校給食あり方作業部会」により、懇談会の提言を具体化するための協議・検討が行われ、モデル校による取り組みを経て、平成27年度より、全小中学校において、「暮らしのなかの食」が導入されました。

- 子どもたちが、自然と暮らしの循環を実感し、楽しくコミュニケーションしながら給食をいただきます
- 「暮らしのなかの食」にふさわしい給食の空間の創出をめざします



- 食材の調達、農地の確保、農業指導、給食を通じた交流等、「暮らしのなかの食」を実現するために、家庭・地域との協働を進めます

<子育て世代にぴったりなまち>
長野県伊那市 <http://www.inacity.jp/>



伊那市が大切にしている教育活動

伊那市の **キャリア教育**

「地域で子どもを育てよう」
子どもは地域の宝
地域の未来



伊那市が考えるキャリア教育とは、子どもたちが、社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現する力を育む活動をいいます。キャリア教育が子どもたちの成長を促す大きな力になることを願い、学校、家庭、地域、産業界、行政が、同じ思いを持ってキャリア教育に取り組んでいます。



「キャリアフェス」

ふるさとの産業を知り、そこに暮らす人と文化に出会うためのイベントを開催しました。



「キャリア教育産学官交協会」

上伊那地域が一体となって郷土愛を大切にした次世代育成と地域づくりを推進しています。

特色ある活動が認められ、
キャリア教育文部科学大臣表彰
を受章しました。

- 第6回（平成24年度）
伊那市立高遠中学校
- 第8回（平成26年度）
伊那市教育委員会
- 第10回（平成28年度）
伊那市立富巣小学校PTA



「職場体験学習の事前学習」

職場体験学習に先立って、働くことの意味や喜びを社会人講師との対話やワークにより学習します。

伊那市キャリア教育憲章

- 1 「地域で子どもを育てる」思いを共有し、それぞれ【学校、家庭、地域、産業界、行政】の立場を尊重し協働してキャリア教育に取り組みます。
- 2 地域の魅力や地域で生きる思いを子どもたちに伝え、ふるさとに誇りを持ちふるさとに感謝する気持ち「郷土愛」を育み、「郷土愛」を受け継ぐ次世代の育成に努めます。
- 3 子どもたちが、自分の存在が大切であるという気持ちや誰かに必要とされているという意識を育むことができるよう、様々な体験の機会を創出します。
- 4 幼児期から社会人までを見通したつながりのあるキャリア教育を進めます。
- 5 子どもたちが自らを生き、伸ばし、幸せを感じることができる魅力的なふるさとの継承と発展に努めます。

平成26年12月
伊那市キャリア教育推進委員会



「夢大学 ～郷土愛めぐり～」

ふるさと伊那谷で働く大人の姿を、想いを生徒・教職員が直接足を運んで学びます。

＜子育て世代にぴったりのまち＞

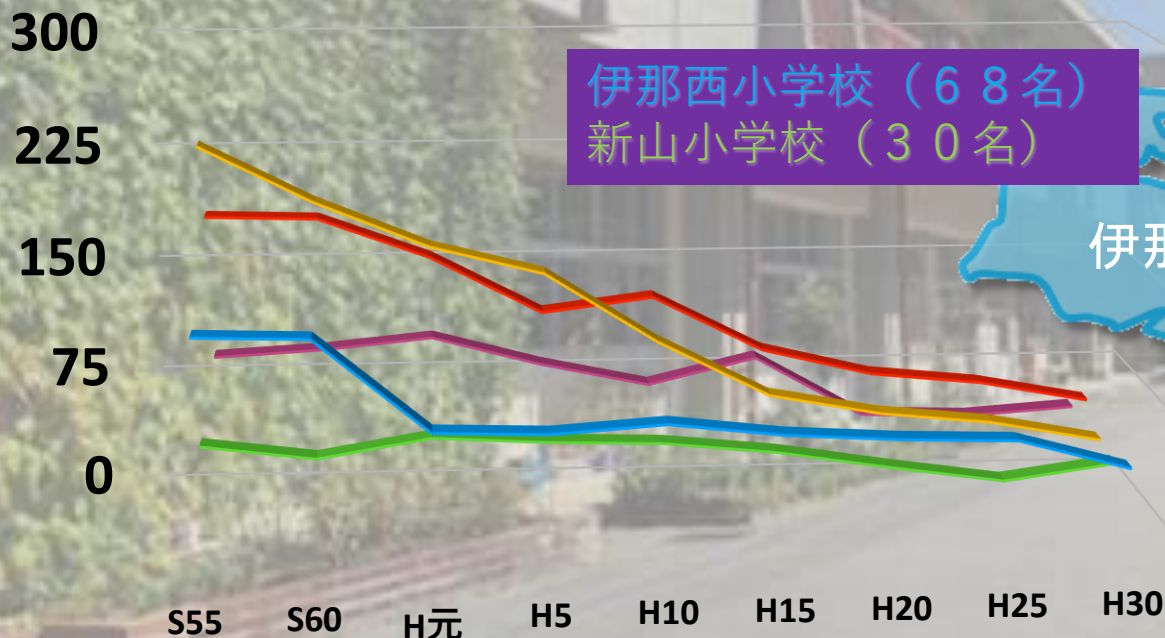
長野県伊那市 <http://www.inacty.jp/>



教育上の諸課題

市内には児童・生徒数が100人に満たない小規模校が5校あり、少人数であることを活かした教育活動を行っていますが、少子化・人口減少が中長期的に継続することが見込まれること等を背景として、学校の小規模化に伴う教育上の諸課題がこれまで以上に顕在化されることが懸念されています。

小規模校・児童生徒数推移



高遠北小学校 (53名)

伊那西小学校 (68名)
新山小学校 (30名)

高遠地区

伊那地区

長谷地区

長谷小学校 (74名)

長谷中学校 (34名)

■ 伊那西小 ■ 新山小 ■ 高遠北小 ■ 長谷小 ■ 長谷中

学 校 数	中学校	6校
	小学校	15校
児童生徒数		5,642名

文部科学省委託事業

「少子化・人口減少社会に対応した活力ある学校教育推進事業」

伊那市の学校は古くから地域コミュニティ核として重要な役割を果たしてきました。そのような背景から、学校がなくなることは地域の衰退につながると考え、存続を前提に文部科学省の「少子化・人口減少社会に対応した活力ある学校教育推進事業」の公募に応募し採択されました。

研究タイトル

「小規模校におけるデジタル教材の開発・活用と
学校間ネットワークの構築による教育活動の高度化」

研究課題及び具体的目標の設定

(1) 小規模校のメリットを最大化させる方策

- ア 少人数であることを最大限に生かした教育活動に関する研究
・ デジタル教材の活用などによる個に応じたきめ細やかな学習指導等

(2) 小規模校のデメリットを最小化させる方策

- ア 学校間ネットワークの構築
・ アクティブ・ラーニングを通じた多様な意見に触れる機会の確保等

研究期間

平成27年度 ～ 平成29年度（3年間）

外部有識者

東京工業大学名誉教授 清水 康敬 氏（当時）
宇都宮大学教授 久保田善彦 氏

学校間ネットワークの構築

小規模校のデメリット

「多様な意見に触れる機会を創出するために」

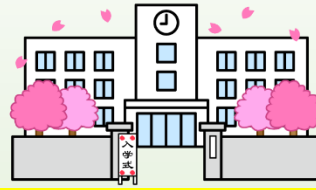
事例1 中一ギャップの解消

新山小学校児童

新山小学校が抱える課題



同じ中学校へ進学



伊那東小学校 6年 児童数 93名



美篤小学校 6年 児童数 70名



伊那北小学校 6年 児童数 74名



手良小学校 6年 児童数 26名

新山小学校 6年 児童数 1名

保護者の声

・卒業後、同年の知人がいない中学校へ通わせるのが不安



先生の声

・学校生活の中で同学年の子の考えや意見に触れる機会がない



学校間ネットワークの構築

テレビ会議ツール
授業支援ツールを活用

多様な意見に触れる機会の創出



遠隔合同授業の実践

新山小学校 6年 児童数 1名

+

手良小学校 6年 児童数 26名



一体感の向上

実交流授業の実施

||

学校の枠を超えクラス（27名）がひとつになった



保護者の声

- ・ 今回の取り組みを通じ娘に沢山の友達ができました。正月には年賀状も届き大変喜んでいました。
- ・ これで安心して中学校へ送り出すことができます。

先生の声

- ・ 学校生活の中で今までは決して体験できなかった中大規模校では日常的事、例えば多様な意見に触れ、友達と議論するなどの体験を通じ学習が深まった。また、クラスの中での自分の居場所を知ることで大きな成長にもつながりました。



学校間ネットワークの構築

小規模校のデメリット

「多様な意見に触れる機会を創出するために」

事例2 非同期型遠隔交流の実践

長谷小学校・高遠北小学校

遠隔合同授業（同期型）で交流してきた両校が感じていた課題

- ・ 授業実施にあたり時間のすり合わせや事前準備等が必要
- ・ 手軽に多様な意見に触れられる機会を創る方法はないか

専用掲示板を介した双方向コミュニケーション（非同期型遠隔交流）の実施

専用掲示板（イントラ内）





描いた「ひょうたんを持った絵」を投稿

ひょうたんは、下の色が青っぽいんだね。



ちゃんと影みたいにやりました。観てくれてありがとう。

すごく大きなひょうたんをもっているところがいいですね。色もいいですね。もっている手もいいですね。



大きいひょうたんを書くのが苦労して、色も、薄い色で塗りました。気づいてくれてうれしいです。

ひょうたんが赤ちゃんみたいだね。いいね。



ひょうたんを丸くして赤ちゃんみたいにしました。ありがとう。

子どもたちの感想から

< 高遠北小学校児童の感想 >

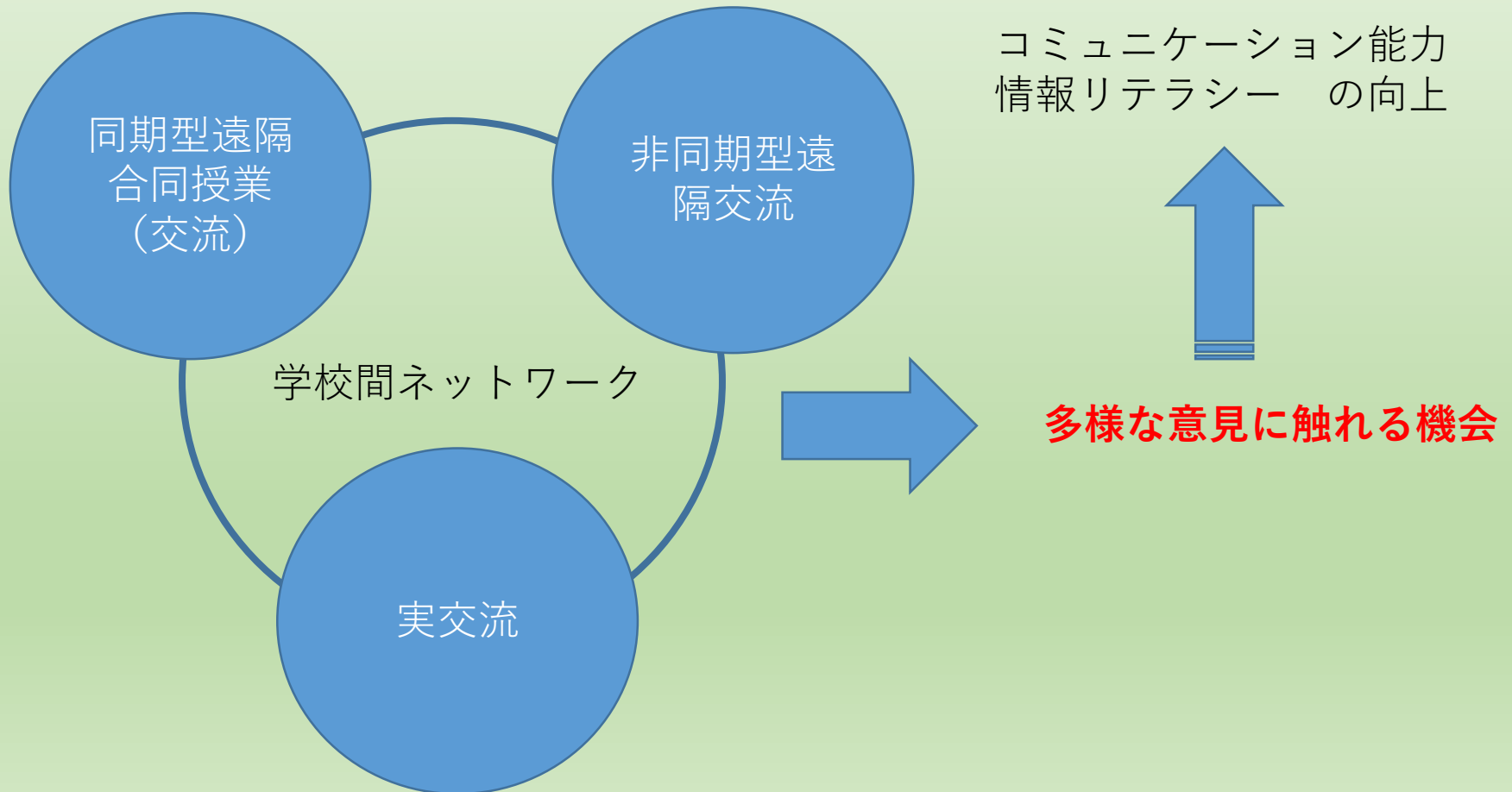
- ・ 長谷小の4年生に、自分の絵の良さや工夫したことをいろいろな言葉をつかって表現することができた。
- ・ 長谷小のみんなの作品を見てコメントを打ったり自分が作ったものの見てもらいたいことやおもしろくなったところを見つけてコメントするのがおもしろかったです。
- ・ 長谷小のみんなもいっぱい伝えてくれているので自分たちの作ったものを伝えられてよかった。パソコンで文字を打つのがとても楽しかった。

< 長谷小学校児童の感想 >

- ・ 高遠北小の人がかいた絵を見て、ここがいい!!とか思いながらコメントを全員に書いたのでよかったです。それと、いいと思った言葉をつかえたのでよかったです。
- ・ 高遠北小の4年生と、アイパッドでコメントを打ったりしてちょっとした交流ができてよかったし、高遠北小の4年生がほめてくれたことに対して、わかりやすいように工夫したことなど、たくさんのコメントをかけたのでよかったです。
- ・ また、交流ができたらいいなと思いました。
- ・ ほかの人はどう思っているのかなどが知れてよかった。アイパッドで文字をうつのも楽しかった。またやりたい。
- ・ 自分でかいた絵に高遠北小の4年生がコメントなどをかいてくれたのでうれしかったです。

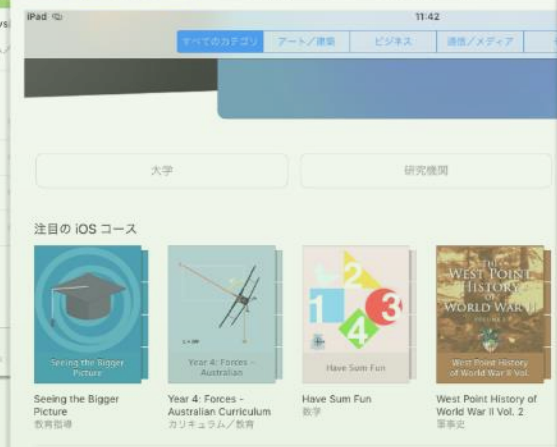
取組から見たもの

情報通信技術を使うことで遠隔合同授業等を行うことはできる。しかし、それだけでは学校間ネットワーク構築にならない、両学校の生徒同士が一体感をもって授業に臨める仕組みが大切であった。今回は活動の中に実交流を加えることでより一体感が向上した。学校間ネットワークが円滑に機能すると、単に多様な意見に触れる機会の創出に留まらず。情報リテラシーやコミュニケーション能力の向上にもつながる活動場面の創出にもつながった。





iTunesU



iBooks



iTunesU伊那市教育委員会ページで公開中

公開参観は

11/3土

文化の日

新山小学校は小規模特認校の
指定を受けています

ちっちゃな学校ででっかい夢を

にいやましようがっこう
長野県伊那市立 新山小学校

コミュニケーション学習



全校で討論する月目標集会

ICT学習



クラブ活動でプログラミング教育

地域学習



地元のお年寄りの方と草もち作り

交流学习



新山保育園児と一緒にじゃがいも掘り



ドリルの時には1年生から英語学習



合同授業を発展させてICTを使い遠隔授業



秋の自然を親しむ日でみんなでキノコ採り



近くの富県小学校とのスポーツ交流

グローバルな視点と

ローカルな視点で

少人数で一人ひとりに力をつけて「グローバル」な児童を育てる

まずは0265-72-2884へお電話を！ 新山小HP：<http://www.ina-ngn.ed.jp/~newyama/>

ご清聴ありがとうございました。